

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700061		
法人名	有限会社 美作名倉堂		
事業所名	グループホーム 武蔵の里		
所在地	岡山県美作市下庄町905-1		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 11 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jizyosvoCd=3393700061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jizyosvoCd=3393700061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏祭りを施設の駐車場でったり、地区の小学校の運動会予行演習の見学、近隣施設での食事会など地域との交流を多く持つ機会を作っている。今年はコロナウイルスにより、外出の機会が減っているが、運動不足の解消や機能の向上を目的に、自転車のサイクル機器を購入・活用することで、個別支援にも繋がっており、マイナス面ばかりではなくプラスの面も見えている。また、法人が接骨院であることから、柔道整復師による機能訓練の指導に来ていただくことで、より個別化を図った支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これからは、アナログも必要だがデジタルも必要と、剣豪武蔵と同じように二刀流を考えている。家族との連絡をタブレットで活用し、組織内では、社長と職員との意見交換でマンツーマンのリアル面談も行っている。内と外とのデジタル二面性から親密な関係を築く反面、アナログ的な電話やお手紙を従来どおり頻繁にお伝えし、家族や地域が温かく深い関係となっている。今現在の厳しさを真摯に受け止め、密に伝達する事で、家族と昔生活したようにリアルに再現し、笑顔溢れる家庭的さを追求している。後山からの爽やかな風が、武蔵の里に優しく幸せを運び、職員の背中を後押ししながら前向きに込めている職員の姿が静かに輝いていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	事務所と各ユニットに掲示しており、いつでも振り返れるようにしている。	理念を事務所と各ユニットに掲示している。職員が意見を出し合い作った理念なので、周りに浸透しやすく、利用者に接する職員からも「家庭的でやさしいホーム」が見受けられた。法人の理念は、名札にも入れており、日々の業務の中でいつでもどこでも折に触れても振り返られる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響であまり実践出来ていないが、自治会より黒豆をたくさんいただき、利用者様が下処理をされた。	町内会に加入していて、ケアマネジャーが地元出身なので情報が入ってきやすく、地域に密着に貢献している。密を避けるためにタブレットやラインを使い、家族や地域の方に写真や動画を配信しシェアしている。コロナをポジティブに捉え、日頃から活用しようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りや小学校の運動会に参加させていた中で、様々な年代の方と利用者様の交流を通じて認知症への理解を広めているが、今年はコロナの影響で実践出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、家族様、市職員が参加してくださり、情報交換の場としているが、今年はコロナの影響で実践出来ていない。議事録を配布した。	市の包括、高齢者福祉課、区長、民生委員が参加している。会議が出来ない状況なので、電話で意見や伝えたいことを議事録として作成し、郵送や持参をして連携がとれるようにしている。会議では、避難場所の候補を新たに模索して、アドバイスを頂いたことがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症予防の対応や、災害時の情報を共有し、緊急時には支援を得られるよう連携に努めている。	事務長とケアマネジャーが窓口となっていて、わからないことがあれば電話で相談したり、直接出向いたりして連携をとっている。担当者とは顔なじみで、何でも言える関係が形成されている。また、メールや郵送で連絡がくるので、最新の情報をチェックすることができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、ミーティング時に内部研修を行っている。	身体拘束はしない。3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催しており、事例や他の施設の情報を取り上げ、身体拘束のボーダーラインの確認を行っている。職員間同士でスピーチロックに気づいた際には、次の議題として活かすように努めている。	スピーチロックなど、その場で対応出来るものは、職員同士意見を出し合って、その場で改善できる場を作ってはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	普段のケアの中で、言葉による虐待にならないよう、お互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるので、ミーティング時に制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を本人様、家族様に十分に説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会規制を行っているので、電話で状況報告をこまめに行っている。その時に家族様の意見を伺うよう努めている。	家族とは電話やラインを使って連絡している。画像や動画を配信する事もあり、家族から孫が生まれた時の動画が送られてきて、利用者が笑顔になることもあった。家族の意見や提案を聞き入れて、お菓子を好きなだけ食べてもらったり、ノンアルコールビールを提供したりしたことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や、それ以外にも随時意見を受け付け、対応している。	今年度から、社長と全職員の個人面談を行い、関係者会議や法人内の管理者同士でのオンライン会議を実施した。各ユニットにゲートキーパー役の職員がいるので、素直に思いや意向を聞いてもらえる環境が整備されている。社長や事務長とは、気軽に何でも話せる雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別面談を行い、職員の勤務状況を把握しており、権利擁護についても十分配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に適した研修に参加できる様機会を設けているが、今年はコロナの影響で研修会に参加出来ていないので、法人内でコロナについて研修会を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、交流の機会や情報交換の場を持つようにしているが、今年はコロナの影響で交流出来ていない。電話にて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思いを汲み取ることに十分な配慮を行い、安心して話せる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望を伺い、具体的な例を挙げてGHでの対応を理解していただき、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よりご本人様に適した利用計画を立て、実行できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護するだけでなく、年長者を敬い接する事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の訴えに対して家族様にも協力していただき、より良いケアが出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の馴染みの店との関係を保ち、ご友人との面会も継続している。	コロナで面会はできていないが、今まで通り家族が玄関まで立ち寄り、軽く職員と立ち話をしてから差入れはある。受診時にドライブがてら、近所の神社へお参りに行ったり、隣接する企業の人とブドウ畑で立ち話をしたりして、身近でできる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人柄を配慮し、レクリエーション等で各ユニットの交流を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の相談にも、可能な限り対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を第一にとらえ、その人らしく生活できるように支援している。	帰りたいと言う利用者には、外に出て気分転換をして、本人が納得するまで見守るようにしている。会話の少ない利用者には、さりげなく後をついていく「待つ介護」をしている。寄り添って話をすることを心掛けており、日頃の会話からも思いや要望を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの情報をもとに、出来るだけ在宅時と変わらない生活が送れるように検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを行ったり、本人様の状態に合わせた柔軟な対応をするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い必要があれば関係医療機関の意見も伺い、適切な計画作成を行っている。	入居時、3ヶ月、その後は利用者の生活習慣を把握しながら、介護計画を作成している。カンファレンスとモニタリングは毎月行っている。担当制を敷いており、本人の意向をできるだけ尊重し、ケアマネジャーと計画作成担当者が取りまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録から情報を共有し、ケアの統一をする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設から情報収集したり、行政へも相談して迅速に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設で提供するお米を地域の方から購入することで、地域との関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の往診を中心に、必要に応じて受診に行ったり、専門医への受診も対応している。また、家族様対応にてかかりつけ医の受診に行かれる方もいる。	入居時に協力医の説明を行い、ほとんどの利用者が協力医に転医する。月1回往診があり、何かあればその都度、電話でやりとりをしている。外部の訪問看護に意見を求めたり、法人内の接骨院から情報提供やアドバイスをもらったりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変わったことがあった際は、訪問看護師に電話で状態を伝え、必要に応じて受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院へ、情報提供書を作成し提出している。現在コロナウイルスにより面会もできないことから、入院先へ電話連絡にて状況確認しながら連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の意向を尊重しながら介護を行い、急変時はすぐ家族様に報告連絡し、協力医療機関に受け入れの協力をお願いしている。	入居時、利用者・家族に指針を説明し、どこまでのケアが出来るかの同意を得ている。重度化した場合は、家族感情に寄り添いながら主治医と話し合い、その後の対応や方法に同意を得ている。年に一度行う看取り研修では、協力医が講師になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練でAEDの使用方法や心肺蘇生法を、緊急時に備えて救急隊員から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使用しての連絡訓練を、定期的に行い、その都度見直しをしている。	年2回昼夜想定のもと避難訓練を実施している。訓練時に消防署が来てくれた際には、救急救命も実施した。去年の台風時は、訓練で活用した緊急連絡網や避難用具、出入口付近に貼ってある避難経路が役に立った。備蓄は、水と食料を2日分ほど用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症によりコミュニケーション能力が低下した利用者様にも可能な限り意思の疎通を図る様努力している。	呼称は、苗字で「さん」付けだが、本人や家族の希望や関係性に応じて、家族に了承を得て愛称で呼ぶこともある。入室時や掃除の際、必ず利用者に確認してから入退室するように配慮している。トイレへ行く時には、その人だけにわかる言葉やサインで誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の前準備や食後の下膳など、可能な利用者様には自発行為を尊重し、無理強いしないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動を見極め、個々に合った生活が出来る様配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者様には、レクリエーションの一環として、化粧をしたり、皆様散髪に出かけるなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度カップラーメンや手作りランチの日を設けるなど、いつもと違うメニューを提供することで、食事を楽しむための工夫をしている。	食事はケイタリングだが、敷地内の菜園で利用者が収穫したスイカやネギ、サツマイモが食卓に添えている。ホットケーキ、ゼリー、善哉、おはぎをおやつとして作り、楽しみとなっている。また、誕生日やクリスマス時には、ケーキを囲み、団欒の場を広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在食事は、食品業者に発注しており、カロリーや栄養面ではバランスが取れている。水分量は好みもあるが、摂取量が少ない方には必要に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの実施、義歯洗浄剤を使用している。また必要に応じて協力歯科医院の受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその都度確認することで、個々に合った排泄支援を行っている。	トイレ介助は、可能な限り自立して排泄出来る支援に取り組んでいる。利用者の排泄パターンに合わせて言葉掛けや誘導をすることで、衛生材料を必要最小限に留めている。「ちよっ、ちよっ来て～」と気兼ねなく足が向くトイレ誘導の言葉掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整をや、体操など体を動かすことを意識している。必要に応じて下剤を使用する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方もおられるが、声かけや時間をずらすなど工夫し、状況に合わせて入浴していただけよう支援している。	入浴は週2～3回で、足浴や清拭も行い、入浴が楽しくなる様、肌に配慮して入浴剤を使用したり、身体に適した温度に設定したりしている。また、入浴を嫌がられる利用者には、時間や場所や雰囲気を変えるなどの工夫をし、少しでも気分良く入れる言葉掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類温度調節など、季節ごとの状況を考えてながら支援し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧をファイリングし、いつでも確認出来る様各ユニットに保管している。薬が追加された際には、申し送りを全職員への周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭きなどの家事手伝いだけでなく、体操や歌などのレクリエーションを通してさまざまな支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけたり、花見や食事に出かけるなど、外出の機会を多く持っていたが、コロナウイルスの影響により、外気浴にとどまっている。	遠出ができないので、昔とった杵柄である庭の草抜き、玄関の掃き掃除や洗濯物を取り込むことで、外出支援に変わる取り組みで楽しんでいる。日当たりが良く、幹線道路沿いの広い敷地を生かして、毎日の様に外気に触れ、外出した気分を味わって健康を促している。	地域の変化や移り変わりを身近に手にとるようにわかる工夫など楽しみが増すような多様性を見出す方法を模索してはいかがでしょうか。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある利用者様には、職員が同行し、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話だけではなく施設のタブレットを活用し、家族様とLINEで繋がることで、ビデオ通話を利用し、面会ができない中でも顔を合わせられる機会ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは身体状況に応じ、各利用者様で必要となる支援が異なる点に充分注意しながら、より快適な空間を提供出来るよう努力している。	リビングではテレビを観たり、パズルをしたり、洗濯物を畳んだりして、自分の時間をゆっくりと味わっていた。椅子やソファに腰かけて、おしゃべりを楽しんだり、自分の似顔絵の前に陣取り、何かを想像したりして夢見ている利用者がいた。壁いっぱいの大きなカレンダーが、リビング全体の殺風景さを消す演出をしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごすことが好きな方もおられるため、共有スペースで過ごすことを強制せず、それぞれの利用者様が安心して過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設からの制限は基本的に設けず本人様、家族様の自由にご利用いただいている。	居室が花の名前で親しみやすくなっている。それぞれの馴染みの家具や仏壇を持ち込み、遺影に手を合わす利用者もいた。壁には、写真や誕生日に頂いた色紙が飾られていたり、百寿のお祝いに家族が作成した新聞を大切に飾っていたりする部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレや各個人の居室、洗面台等、出来るだけ自身で解る様表札を設置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700061		
法人名	有限会社 美作名倉堂		
事業所名	グループホーム 武蔵の里		
所在地	岡山県美作市下庄町905-1		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 11 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jizyosvCd=3393700061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jizyosvCd=3393700061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山県岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏祭りを施設の駐車場でったり、地区の小学校の運動会予行演習の見学、近隣施設での食事会など地域との交流を多く持つ機会を作っている。今年はコロナウイルスにより、外出の機会が減っているが、運動不足の解消や機能の向上を目的に、自転車のサイクル機器を購入・活用することで、個別支援にも繋がっており、マイナス面ばかりではなくプラスの面も見えている。また、法人が接骨院であることから、柔道整復師による機能訓練の指導に来ていただくことで、より個別化を図った支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これからは、アナログも必要だがデジタルも必要と、剣豪武蔵と同じように二刀流を考えている。家族との連絡をタブレットで活用し、組織内では、社長と職員との意見交換でマンツーマンのリアル面談も行っている。内と外とのデジタル二面性から親密な関係を築く反面、アナログ的な電話やお手紙を従来どおり頻繁にお伝えし、家族や地域が温かく深い関係となっている。今現在の厳しさを真摯に受け止め、密に伝達する事で、家族と昔生活したようにリアルに再現し、笑顔溢れる家庭的さを追求している。後山からの爽やかな風が、武蔵の里に優しく幸せを運び、職員の背中を後押ししながら前向きに込めている職員の姿が静かに輝いていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	事務所と各ユニットに掲示しており、いつでも振り返れるようにしている。	理念を事務所と各ユニットに掲示している。職員が意見を出し合い作った理念なので、周りに浸透しやすく、利用者に接する職員からも「家庭的でやさしいホーム」が見受けられた。法人の理念は、名札にも入れており、日々の業務の中でいつでもどこでも折に触れても振り返られる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多目的機能支払い交付金を活用し、地区で黒豆を制作している。地域の方々と協力し、栽培・収穫を行っている。	町内会に加入していて、ケアマネジャーが地元出身なので情報が入ってきやすく、地域に密着に貢献している。密を避けるためにタブレットやラインを使い、家族や地域の方に写真や動画を配信しシェアしている。コロナをポジティブに捉え、日頃から活用しようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時利用者様避難のために、地区の公会堂の使用を検討しており、車椅子の利用者様もおられるため、車椅子でも上がることができるよう、ブルーシートの準備を進める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、家族様、市職員が参加してくださり、情報交換の場としているが、今年はコロナウイルスの影響で集まる事が難しいため議事録を作成し、民生委員、家族様、市職員へ情報の周知に努めている。	市の包括、高齢者福祉課、区長、民生委員が参加している。会議が出来ない状況なので、電話で意見や伝えたいことを議事録として作成し、郵送や持参をして連携がとれるようにしている。会議では、避難場所の候補を新たに模索して、アドバイスを頂いたことがあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症予防の対応や、災害時の情報を共有し、緊急時には支援を得られるよう連携に努めている。	事務長とケアマネジャーが窓口となっていて、わからないことがあれば電話で相談したり、直接出向いたりして連携をとっている。担当者とは顔なじみで、何でも言える関係が形成されている。また、メールや郵送で連絡がくるので、最新の情報をチェックすることができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、ミーティング時に内部研修を行っている。	身体拘束はしない。3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催しており、事例や他の施設の情報を取り上げ、身体拘束のボーダーラインの確認を行っている。職員間同士でスピーチロックに気づいた際には、次の議題として活かすように努めている。	スピーチロックなど、その場で対応出来るものは、職員同士意見を出し合っ、その場で改善できる場を作ってはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段のケアの中で、言葉による虐待にならないよう、お互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるので、ミーティング時に制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を本人様、家族様に十分に説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナで面会規制を行っているので、電話で状況報告をこまめに行っている。その時に家族様の意見を伺うよう努めている。	家族とは電話やラインを使って連絡している。画像や動画を配信する事もあり、家族から孫が生まれた時の動画が送られてきて、利用者が笑顔になることもあった。家族の意見や提案を聞き入れて、お菓子を好きなだけ食べてもらったり、ノンアルコールビールを提供したりしたことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や、それ以外にも随時意見を受け付け、対応している。	今年度から、社長と全職員の個人面談を行い、関係者会議や法人内の管理者同士でのオンライン会議を実施した。各ユニットにゲートキーパー役の職員がいるので、素直に思いや意向を聞いてもらえる環境が整備されている。社長や事務長とは、気軽に何でも話せる雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別面談を行い、職員の勤務状況を把握しており、権利擁護についても十分配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士国家試験受験者の内部研修や実務者研修など、オンラインでの研修と対面での研修を織り交ぜながら新しいスタイルでの研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、交流の機会や情報交換の場を持つようにしている。今年はコロナウイルスの影響でオンラインでの研修の参加の機会が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思いを汲み取ることに十分な配慮を行い、安心して話せる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の希望を伺い、具体的な例を挙げてGHでの対応を理解していただき、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よりご本人様に適した利用計画を立て、実行できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介護するだけでなく、年長者を敬い接する事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の訴えに対して家族様にも協力していただき、より良いケアが出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の馴染みの店との関係を保ち、ご友人との面会も継続している。	コロナで面会はできていないが、今まで通り家族が玄関まで立ち寄り、軽く職員と立ち話をしてから の差し入れはある。受診時にドライブがてら、近所の神社へお参りに行ったり、隣接する企業の人とブドウ畑で立ち話をしたりして、身近でできる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人柄を配慮し、レクリエーション等で各ユニットの交流を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の相談にも、可能な限り対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を第一にとらえ、その人らしく生活できるように支援している。	帰りたいと言う利用者には、外に出て気分転換をして、本人が納得するまで見守るようにしている。会話の少ない利用者には、さりげなく後をついていく「待つ介護」をしている。寄り添って話をすることを心掛けており、日頃の会話からも思いや要望を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの情報をもとに、出来るだけ在宅時と変わらない生活が送れるように検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを行ったり、本人様の状態に合わせた柔軟な対応をするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い必要があれば関係医療機関の意見も伺い、適切な計画作成を行っている。	入居時、3ヶ月、その後は利用者の生活習慣を把握しながら、介護計画を作成している。カンファレンスとモニタリングは毎月行っている。担当制を敷いており、本人の意向をできるだけ尊重し、ケアマネジャーと計画作成担当者が取りまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録から情報を共有し、ケアの統一をする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設から情報収集したり、行政へも相談して迅速に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設で提供するお米を地域の方から購入することで、地域との関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の往診を中心に、必要に応じて受診に行ったり、専門医への受診も対応している。また、家族様対応にてかかりつけ医の受診に行かれる方もいる。	入居時に協力医の説明を行い、ほとんどの利用者が協力医に転医する。月1回往診があり、何かあればその都度、電話でやりとりをしている。外部の訪問看護に意見を求めたり、法人内の接骨院から情報提供やアドバイスをもらったりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変わったことがあった際は、訪問看護師に電話で状態を伝え、必要に応じて受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院へ、情報提供書を作成し提出している。現在コロナウイルスにより面会もできないことから、入院先へ電話連絡にて状況確認をしながら連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の意向を尊重しながら介護を行い、急変時はすぐ家族様に報告連絡し、協力医療機関に受け入れの協力をお願いしている。	入居時、利用者・家族に指針を説明し、どこまでのケアが出来るかの同意を得ている。重度化した場合は、家族感情に寄り添いながら主治医と話し合い、その後の対応や方法に同意を得ている。年に一度行う看取り研修では、協力医が講師になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練でAEDの使用方法や心肺蘇生法を、緊急時に備えて救急隊員から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使用しての連絡訓練を、定期的に行い、その都度見直しをしている。	年2回昼夜想定のもと避難訓練を実施している。訓練時に消防署が来てくれた際には、救急救命も実施した。去年の台風時は、訓練で活用した緊急連絡網や避難用具、出入口付近に貼ってある避難経路が役に立った。備蓄は、水と食料を2日分ほど用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症によりコミュニケーション能力が低下した利用者様にも可能な限り意思の疎通を図る様努力している。	呼称は、苗字で「さん」付けだが、本人や家族の希望や関係性に応じて、家族に了承を得て愛称で呼ぶこともある。入室時や掃除の際、必ず利用者に確認してから入退室するように配慮している。トイレへ行く時には、その人だけにわかる言葉やサインで誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の前準備や食後の下膳など、可能な利用者様には自発行為を尊重し、無理強いしないよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仕草や行動を見極め、個々に合った生活が出来る様配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性利用者様には、レクリエーションの一環として、化粧をしたり、皆様散髪に出かけるなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度カップラーメンや手作りランチの日を設けるなど、いつもと違うメニューを提供することで、食事を楽しむための工夫をしている。	食事はケイタリングだが、敷地内の菜園で利用者が収穫したスイカやネギ、サツマイモが食卓に添えている。ホットケーキ、ゼリー、善哉、おはぎをおやつとして作り、楽しみとなっている。また、誕生日やクリスマス時には、ケーキを囲み、団欒の場を広げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在食事は、食品業者に発注しており、カロリーや栄養面ではバランスが取れている。水分量は好みもあるが、摂取量が少ない方には必要に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの実施、義歯洗浄剤を使用している。また必要に応じて協力歯科医院の受診を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しその都度確認することで、個々に合った排泄支援を行っている。	トイレ介助は、可能な限り自立して排泄出来る支援に取り組んでいる。利用者の排泄パターンに合わせて言葉掛けや誘導をすることで、衛生材料を必要最小限に留めている。「ちょっと、ちょっと来て～」と気兼ねなく足が向くトイレ誘導の言葉掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の調整をや、体操など体を動かすことを意識している。必要に応じて下剤を使用する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方もおられるが、声かけや時間をずらすなど工夫し、状況に合わせて入浴していただけよう支援している。	入浴は週2～3回で、足浴や清拭も行い、入浴が楽しくなる様、肌に配慮して入浴剤を使用したり、身体に適した温度に設定したりしている。また、入浴を嫌がられる利用者には、時間や場所や雰囲気を変えるなどの工夫をし、少しでも気分良く入れる言葉掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や衣類温度調節など、季節ごとの状況を考えてながら支援し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧をファイリングし、いつでも確認出来る様各ユニットに保管している。薬が追加された際には、申し送りを全職員への周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭きなどの家事手伝いだけでなく、体操や歌などのレクリエーションを通してさまざまな支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により外出の機会は減っているが、玄関先で外気浴を行うことで、季節を感じていただく機会を持っている。	遠出ができないので、昔とった杵柄である庭の草抜き、玄関の掃き掃除や洗濯物を取り込むことで、外出支援に変わる取り組みで楽しんでいる。日当たりが良く、幹線道路沿いの広い敷地を生かして、毎日の様に外気に触れ、外出した気分を味わって健康を促している。	地域の変化や移り変わりを身近に手にとるようにわかる工夫など楽しみが増すような多様性を見出す方法を模索してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある利用者様には、職員が同行し、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話だけではなく施設のタブレットを活用し、家族様とLINEで繋がることで、ビデオ通話を利用し、面会ができない中でも顔を合わせられる機会ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは身体状況に応じ、各利用者様で必要となる支援が異なる点に充分注意しながら、より快適な空間を提供出来るよう努力している。	リビングではテレビを観たり、パズルをしたり、洗濯物を畳んだりして、自分の時間をゆっくりと味わっていた。椅子やソファに腰かけて、おしゃべりを楽しんだり、自分の似顔絵の前に陣取り、何かを想像したりして夢見ている利用者がいた。壁いっぱいの大きなカレンダーが、リビング全体の殺風景さを消す演出をしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごすことが好きな方もおられるため、共有スペースで過ごすことを強制せず、それぞれの利用者様が安心して過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設からの制限は基本的に設けず本人様、家族様の自由にご利用いただいている。	居室が花の名前で親しみやすくなっている。それぞれの馴染みの家具や仏壇を持ち込み、遺影に手を合わす利用者もいた。壁には、写真や誕生日に頂いた色紙が飾られていたり、百寿のお祝いに家族が作成した新聞を大切に飾っていたりする部屋もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同トイレや各個人の居室、洗面台等、出来るだけ自身で解る様表札を設置している。		